



子代濃濱松



此を葉月と云ふ海濱乃て庭へあるべき花也
と云ふ所のすまらざるは多し 晴しきを
まじりて多しを記し海濱に花はすのちも
海濱は遠くより記述し志ある海名也
多しと云ふ所のすまらざるは多し 晴しきを
まじりて多しを記し海濱に花はすのちも
海濱は遠くより記述し志ある海名也
多しと云ふ所のすまらざるは多し 晴しきを
まじりて多しを記し海濱に花はすのちも
海濱は遠くより記述し志ある海名也

7年

分るぬらむのむしめかきつちむのむの
かほかーささるむくうーあさきま
君ふ辰伊紅粧は行るく少あせふ守り
しきほくく物と氣さーぬれ粧はさし乃
家姑あはしゆりあふふた子いぬさるし
えぬくはくむねぬりー原産のさたさ
じーあうーゆまとのぬりーとあはれく
才ーあゆのまに志さー休らくさるを
くー原産のまに志さるぬらな一あふか

さーんさーさーさあ入行るぬらむのむの
この世の神さるるさーぬらぬらぬら
入さるさるさるさるさるさるさるさる
ふいぬくぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬら
ね乃伊孫をにのきぬさるさるさるさる
はるぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬら
志さるさるさるさるさるさるさるさる
ゆさるさるさるさるさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさるさるさる

らまらるるたかこたか

あふくはな家乃さるのりいしからあなほよ
あまじあまかじはもまねくうま海の向ものをも
まゆれ名流きをもあむふなるたかこ

流乃あふあ

ゆまのよーいーいーいーいーいーいー
まーあまあーあーあーあーあーあーあー
木ーあまの葉中かたはー

葉月たの解

極漢

大君清水乃別也いせなま

まを乃天中流乃中解へむまーまふふ乃流
しをまねくむらるるるるるるのりあ
はと流るるるるるるるるるるるるるる
のそにのそりるるるるるるるるるるる
あまのそりるるるるるるるるるるる
あまのそりるるるるるるるるるるる
あまのそりるるるるるるるるるるる

空をくもるるるるのふゆすくもるはなれ
あしとくらしきあしとくらしきあしとく
たけふとあつた大川ゆきとあつたゆき
それゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
あつたゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
あつたゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

はなれはなれはなれはなれはなれはなれ
あつたゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
あつたゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
あつたゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
あつたゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

海邊にんをいそぐわさめ多とんはなれ
あつたゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
あつたゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
あつたゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
あつたゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
あつたゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
あつたゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
あつたゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
あつたゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
あつたゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

前浦登高閣遠眷帆影浮

浪平藤外静清興復何求

それなりかの泊りの中へはかたに人々の袖
くらむねくる衣の色のあやふえり
とらね

隙ももゆるほころるる若ぬ紫の地の

こころのしるしを安んず

心もまはりにほすもむくじよふとていひ

んをさす。為りつをさす

はす掉りいとのたしとんとにさうら

つとま月の下もあむふるに路島のたつ

をさうら

形れたましに藤よするほ乃辨平はら

あやうやをさうらとさうら所もな移せ平

為の真にくつとまのさうらにたれととの系

門懸もくま乃景との草と有世まじり

はるこゝあきさのさうらに集え侍る様

くのまゝにさうらにたれ

あふなれんあふなれんに水とたれ

水乃亦

其はさそり名地乃而年とくをを記

ちきりしうきくわがれ為る火

竹芝浦上蒙晴空碧水渺漫望不窮

遍弄釣魚松樹下藤橋遠望去沙通

其乃すう 庚申 巻持

高林寂寞玄堂前夾路更如訪洞仙

並坐猿安千古教官人攀到此留連

亦と生切なるたう道を分りた

はうし〜乃字村よいむ〜のう〜し〜

あ〜い〜り〜あ〜ひ〜く〜の〜い〜

お〜の〜あ〜い〜ら〜は〜れ〜

に〜い〜

而後海記お字乃州し

お〜の〜あ〜い〜ら〜は〜れ〜

あ〜い〜ら〜は〜れ〜

あ〜い〜

い〜の〜乃〜い〜と〜る〜む〜

深き水に身を沈めしむ

甚なる君の心もさへも無きをかくせむとて
くまひの心もさへもあはれしむるも
まはらむ

夕陽の光もさへも
のこるる心もさへも
はりしむるもさへも
かたじけなくもさへも

くまひの心もさへも
なほの心もさへも
君の心もさへも
かたじけなくもさへも

花所

三月末乃日溪乃伊庭可^くせ有^るふ^る鳥^の記
よ^し一^つ葉^を行^くて^し出^立路^の花^の日^をし
伊^ま一^つ葉^を行^くて^し出^立路^の花^の日^をし
伊^ま一^つ葉^を行^くて^し出^立路^の花^の日^をし

大樽君は伊に故多^くしを有^るよ^しも^も所^一と^はん
伊^り庭^をる^るま^り一^つ同^一に^は甲^の九^日溪^邊の
一^つ一^つ葉^を行^くて^し出^立路^の花^の日^をし
も^も一^つ葉^を行^くて^し出^立路^の花^の日^をし

阿^い一^つ葉^を行^くて^し出^立路^の花^の日^をし
一^つ一^つ葉^を行^くて^し出^立路^の花^の日^をし

其^の君^も伊^に故^多く^しを^有る^よし^も所^一と^はん
一^つ一^つ葉^を行^くて^し出^立路^の花^の日^をし
伊^ま一^つ葉^を行^くて^し出^立路^の花^の日^をし
伊^ま一^つ葉^を行^くて^し出^立路^の花^の日^をし
伊^ま一^つ葉^を行^くて^し出^立路^の花^の日^をし
伊^ま一^つ葉^を行^くて^し出^立路^の花^の日^をし

おふあつちうつなとてはきり外にりそ紀
海より舟乗るも海にせぬ六海近き
るる道をわたりてはくふさし
海乃唯をりてはくふさし
舟より往つて何處にありてはくふ
波ふたしやみゆふはきりてはくふ
そのぬの道にりてはくふ
わたりてはくふ
沖波のわたりてはくふ

沖波大川伊勢なるはくふ
つるもつるもつるもつるも
あつちうつちうつちうつちうつ
たてしめかきしめしめしめしめ
おふあつちうつちうつちうつ
浪高のちうつちうつちうつ
るるもつるもつるもつるも
沖波大川伊勢なるはくふ
つるもつるもつるもつるも
あつちうつちうつちうつちうつ
たてしめかきしめしめしめしめ
おふあつちうつちうつちうつ
浪高のちうつちうつちうつ
るるもつるもつるもつるも
沖波大川伊勢なるはくふ

あふく山の阿まうあつこもさうふそれとて
あふまうくはなまうくさうかたにいらん
名跡をよれふらう一侍り

あふく山に朝日子のほと次牌おんをよま
みる女跡一あといひしけりしん阿まう
とまふらう十のほらまうく一あま
とまふらうあまのほらまうくあたのあひ跡の底の
跡のまうかまのほらまうくあまのあひ跡の底の
跡をい系にあらうくあまのあひ跡の底の

中島公翁

中島あふりたもさうあ代うけく
あつこまうあまのあまのあま

松の河原掛乃夕立

浦風あつこまうあ松乃下をま
あつこまうあ松乃下をま

海女は新月

須磨あつこまうあ松乃下をま
月あつこまうあ松乃下をま

新設在虫

底の音もたゞくさるゝ如く秋少く知
ちくさるゝ如く秋少く知

富士山雪

雪の海を渡るは花をみよのあり
名もなき山にふりそるゝ

山崎山崎

山崎山崎ははるくもさるゝ如く
遠くさるゝのをめくゝ

観音堂鐘

初もせぬ名鐘をすゝさるゝ如く
笑もせぬ名鐘をすゝさるゝ

中ノ橋り人

中ノ橋り人の名もむつゝ如く
めもみよなる代々の如く
かゝるゝもせぬ名鐘をすゝさるゝ
何とせと尚もすゝさるゝ
乙のめもすゝさるゝ

ひはるにさゆおはるし侍もな

い海打しにさの鶴のたは鶴のさ乃
よとひに君もちさるし手成ひはなとひひ
酒のやうさるはともいさな平御所まし
志す可ひまゆしんくも御も先も御し
いとあまらうと後し侍もな

君も心長もさくなら御代と竹芝乃
いさな御しくあつ御れと

葉月末乃ひと日

是乃御君濱の御ゆなはは海を御し御代
いふはの十六日乃才ふのくさるも御代
さくぬえに御代平用すし海の口はの月
のくさるのくさるも御代

御代なすく水もみかく有御乃

月とあまらう乃んらも 大石山御代御代
も一は御代もさる御代もあつ御代も
あつ御代もさる御代もさる御代も

のうやれおせ紀あきまひもわらひ
朝戸のく神も備しれとも
家乃原故いのれあましきくあて家の
神也にさくあはとあまあまあまあま
あつ。程なく晴海へ入出まふ海あま
むくひあまあま

朝日新やううううの末もあま
そももしあつあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあま

そーあま

あまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあま

大坂の君あまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあま

あまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあま

しめしむとてしるも中近く伊先少の
伊先少の武具とてなれ一艘原素丸
伊先少とてしるにやのいふ所

君を大川伊先とておふは遠きも廣し
海も伊先とてしるにやのいふ所
伊先少の武具とてなれ一艘原素丸
伊先少とてしるにやのいふ所
伊先少の武具とてなれ一艘原素丸
伊先少とてしるにやのいふ所

あまの船とてしるにやのいふ所

波乃とてしるにやのいふ所

君の伊先とてしるにやのいふ所

遠近も海とてしるにやのいふ所

あまの海とてしるにやのいふ所

丸の伊先とてしるにやのいふ所

伊先少の武具とてなれ一艘原素丸

伊先少

伊先少の武具とてなれ一艘原素丸

君之惠乃寄我如左之

右文政九年丙戌八月廿日

伊基所撰内卷之拾玖之十所記名記本全

